

# 川柳 さいたま

総会の社告



皇居の雪

令和3年(2021年)  
2月号 (No.735)

日川協加盟

## 巻頭言

お稲荷様とごんごん

願法 みつる

日日是好

年改まって早くも二月、如月。寒さが厳しさを増す中、コロナ禍だけが増殖してゆく。緊急事態などと、春の気配を探す当てもない。初詣から始まって多くの催事が封じられている中、身の置き所ない庶民は、心の抛り所を求めてさ迷って居られるのではなからうか。

しからばここは一つ、初午のお稲荷様のキツネでも騙してやるうではないか、なんて不埒な考えを思い付いたお方が居ると思ってください。彼の人、お稲荷様とはオトコを騙すことに長けた女狐で、油揚げが好物の胡散臭い神様なのだと思います。

時やあたかもコロナ禁足の日日、右のお方が折々で読んだ本から、稲荷神社の祭神とは稲に関係して五穀豊穡や商売繁盛をもたらす歴史とした女神であることを知る。しかもでんと構える二体の女狐どもも詐欺師紛いの獣ではなく、神の使い(眷属)で聖獣なのだから。また稲荷様とは、全国の神社の内、四割ほどを占める多さである。八百万の神の国の民としては、些かお恥ずかしいお方ではあった。

確かに昔は街中に大小のお稲荷様を見掛けた。商店街や住宅地やビルの屋上には小祠もあった。神社の境内は子どもらの遊びの場であり、各種の祭事で賑わう楽しみ心地であった。

今、殺伐とした建造物がひしめき人心が妙に堅い街中ではあるが、何気なく見掛ける赤い幟のあるお稲荷様が、安らぎを与えてくれる。そんな日は、久々にきつね饅頭か蕎麦で、温まってみたいくなる。

甘く煮てキツネ煽てる油揚げ  
鬼は内福もついでに呼んでやる  
インシュリン針もご供養するせめて  
血糖値下がるか知らん酒を止め  
涅槃の日北へ尻向け不貞寝する  
悪遊びして北へかりがね  
愛の断捨離牛のもぐもぐ  
樹液に溺れミイラ長しえ  
帰りなんいざ母の温もり  
マスクの五輪さぞやさぞかし